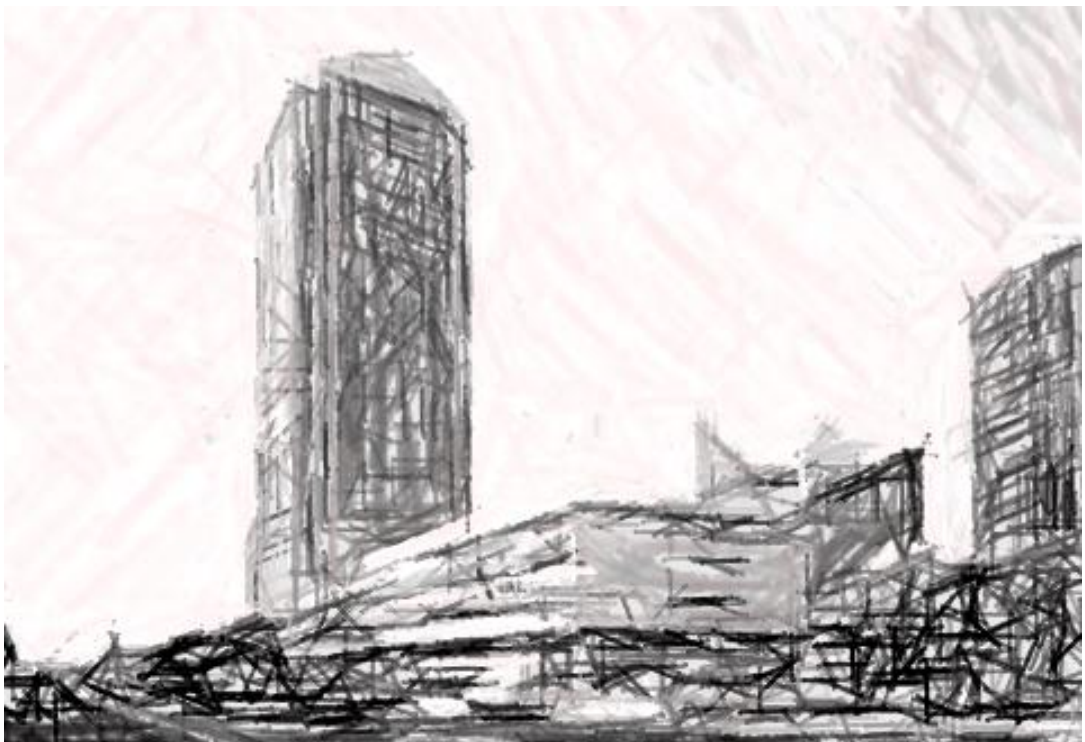


神戸市役所本庁舎新2号館

および周辺公共空間のあり方を考える

ワークショップ



実施報告
令和2年2月

1. ワークショップの目的と位置づけ

神戸市は、本庁舎2号館の再整備を進めるにあたり、三宮駅周辺からウォーターフロント、旧居留地等における回遊性を向上させるため、本庁舎としての必要な機能を確保しながら、市民、来街者に向けて、神戸らしい魅力的な文化や都市景観等を発信するとともに、周辺のまちづくりの活性化を牽引する、シンボリックな空間の整備を目指している。

このような整備の基本方針について周知を図りながら、市民等の様々な意見を収集し、再整備計画の策定をはじめとした今後の取り組みに反映することを目的として本ワークショップを開催した。

ワークショップでは、今後まちづくりの担い手となることが期待される若者（学生）を対象として、新2号館や周辺公共空間のあるべき姿について議論・提案して頂き、その後開催される市民向けシンポジウム（12/22）において、その成果を発表した。

2. スケジュール

日 時：令和元年12月14日（土）10:00～18:00
15日（日）10:00～19:00

場 所：神戸市役所本庁舎2号館、市庁舎周辺

参加者：神戸のまちづくりに関心があり、建築・造園・土木・都市計画・デザイン等を専攻する大学（院）・専門学校生（23名）

3. 運営体制

○主催者

神戸市 都心再整備本部

○ファシリテーター・チューター

・大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 武田 重昭 氏

・建築家 ALTEMY代表 津川 恵理 氏

・京都大学 工学部 非常勤講師 八木 弘毅 氏

・神戸芸術工科大学 環境デザイン学科 助教 矢吹 剣一 氏

○運営サポート

PwCアドバイザリー合同会社

4. 実施結果

(1) 1日目

周辺エリアに関する情報提供や神戸市役所本庁舎2号館再整備基本計画（案）（以下、「基本計画（案）」という。）の紹介、現地調査等を行ったのちに、グループに分かれて、グループワークや中間発表を行った。

① 検討テーマの説明

ファシリテーター・チューターより、「憩い」「アクティビティ」「回遊」などを創出する新たな拠点としての神戸市役所新2号館および周辺公共空間（歩道・地下通路等）のあり方について検討する旨の説明を行った。



② 周辺エリアに関する情報提供、基本計画（案）の紹介

神戸市から基本計画（案）、事業概要、敷地条件、市の施策や上位計画等に関する説明を行った。

加えて、市庁舎周辺エリアについて、ファシリテーター・チューターから、土地の利用状況等の基本情報の提供を行った。



③ 現地調査

参加者、神戸市、ファシリテーター・チューター等により、市庁舎周辺の現地調査を実施し、現地を確認しながら質疑を行った。



4. 実施結果

(1) 1日目

④ グループワーク

まず、参加者が5グループに分かれ、グループごとに新2号館や周辺公共空間のあるべき姿のコンセプトを検討した。これまで、神戸市やファシリテーター・チューターから提供された情報や現地で確認した内容をもとに、活発な議論が展開された。

次に、最終成果物のイメージ及び表現方法の検討を行った。配布された模造紙や模型資材を用いて、それぞれのグループのコンセプトやアイデアをどのように表現するかを議論し、成果物としてまとめた。



⑤ 中間発表

各グループにより、提案コンセプト及び最終成果物のイメージについて中間発表を行い、2日目の検討に向けたアドバイスも含めてファシリテーター・チューターが講評を行った。



4. 実施結果

(2) 2日目

ファシリテーター・チューターにより各グループの検討状況の確認を行うとともに、各グループにより成果物の作成、成果発表を行った。

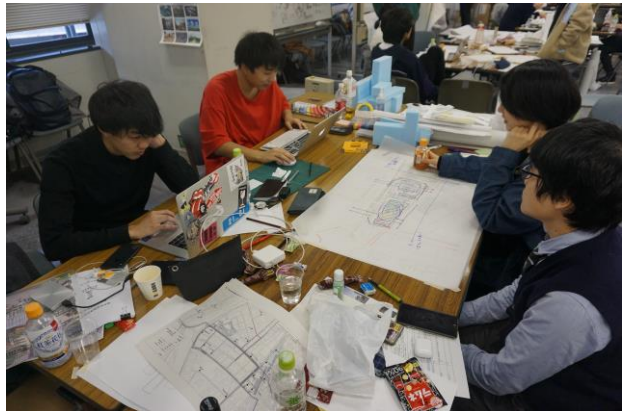
① 検討状況の確認

1日目の中間発表後の各グループの検討状況と2日目の作業について、ファシリテーター・チューターにより進捗確認を行った。



② グループワーク

1日目に検討された提案コンセプトや最終成果物イメージをもとに、ファシリテーター・チューターのアドバイスも踏まえて、グループごとに検討結果の整理を行うとともに、最終成果物の作成を行った。



③ 成果発表

各グループにより、最終の検討結果について発表を行った。ファシリテーター・チューターは講評を行うとともに、後日実施されるシンポジウムで発表する優秀提案2作品を決定した。

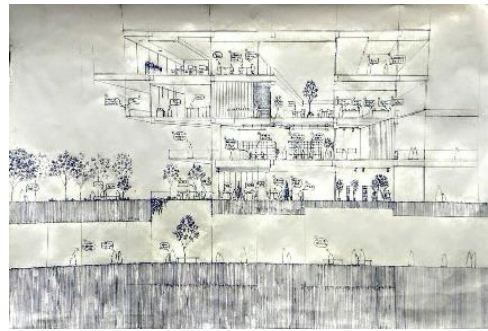


5. 発表内容

A班（チームてっぺいちゃん） コンセプト「混じり溶け合う人々」

対象敷地が結節点となり、神戸の各エリアから集まる「人」のコミュニティを再編するため、神戸の各エリアに存在する仮想人物に沿ったシナリオを作成。

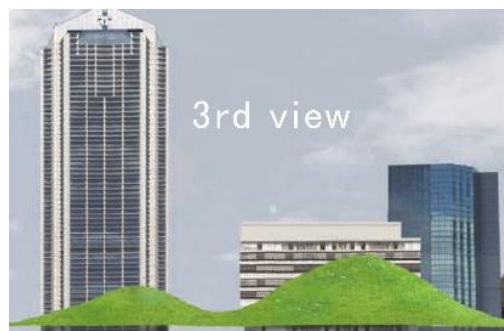
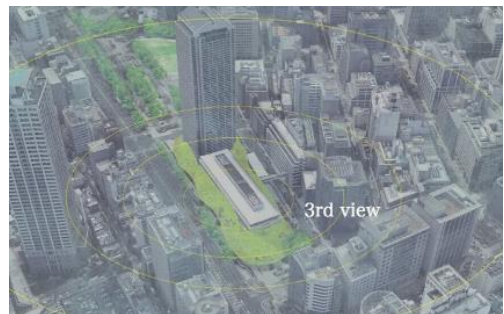
そのシナリオをもとに、神戸の各エリアの人が混じりあうために必要となる低層部の空間を提案。



B班（チームラモス） コンセプト「3rd view」

神戸を代表する海や山の風景に並ぶ「第三のview（3rd view）」を創出するというコンセプトで、人々が集える公共空間を作り出した作品。

新しく神戸が生まれ変わるために「3rd view」を人の動き、群衆の集まりの中に生み出していくことが必要であるという示唆を見出した提案。



5. 発表内容

C班 (チームたまりもん) コンセプト「溜まり『場』と溜まり『事』」

パブリックスペースにおいて、人や物が溜まる「溜まり場」を設けることで、そこで起きる現象（「溜まり事」）をデザインした作品。

歩行者空間において歩きやすくするだけでは面白くないという新しい視点からデザインされた「溜まり場」によって、ヒューマンアクティビティを創出していく提案。



D班 (チームFor Rest) コンセプト「庁舎 in the park」

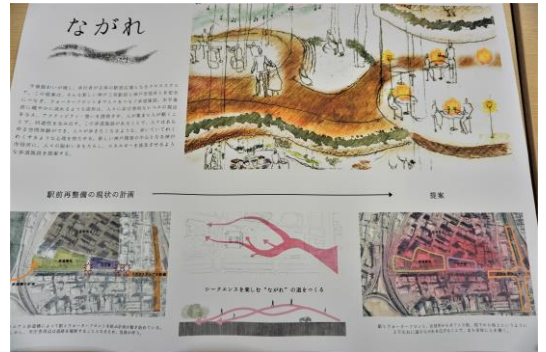
市庁舎がもともと生田川の土手の上にあったことや東遊園地の一部であったことを踏まえて、東遊園地の中に庁舎が建つような形で作り替えた作品。東遊園地のリサーチを丁寧に行い、東遊園地の要素を再構成して、新施設の利用者が憩える屋外空間を提案。



5. 発表内容

E班 (チームWAVE) コンセプト「ながれ」

「人の流れ」をテーマとして、三宮駅前から神戸市役所、ウォーターフロントまでを安全に繋ぐペDESTリアンデッキをつくり、立体的な回遊を作ることによって人々のにぎわいを創出する作品。緩やかに流れるような造形にすることで、人々が歩いてワクワクするような空間を提案。



6. 今後に向けて

全ての作品が完成度の高いものとなったが、検討手法の新鮮さや新しい神戸の拠点となりうる提案等の観点で、A班とB班の提案が優秀作品に選ばれ、上記2班には12月22日のシンポジウムにおいてその成果を発表いただいた。

ワークショップで出されたアイデア等は、基本計画の策定をはじめ、今後再整備事業を進めていくうえで参考にしていく。

